



自民党

市会 議員 関 勝則
せき かつ のり

「地域のチカラ」を、
提案・実践。

◎青少年育成◎
<http://関勝則.com>

～学校・家庭・地域とのつながりから、未来の磯子を育もう～

「きずな」と「ほだし」

「きずな」は、人と人との断つことのできないつながり「ほだし」には、人の心や行動の自由を妨げる(おせっかいな)つながり、という意味があり、捉え方によって感じ方は異なります。ですが、この二つはともに「絆」と表すことができます。

この度、磯子区の青少年育成協議会では、「きずな」と「ほだし」をスローガンに掲げ、従来からある地域における深いつながりを大切に、より一層学校・家庭・地域が一体となって子供たちの成長を見守り、育てることを目指し、青少年健全育成指針を発表(29年10月)しました。

横浜市初!!

「磯子区 青少年健全育成指針」策定の趣旨



指針冊子表紙画:茅野綾音

現代社会におけるインターネット等の普及は、人と直接触れ合う機会の減少をはじめ、青少年の意識や行動、人間関係に大きな影響を及ぼしています。

そうした環境の中で青少年が安心して心身ともに成長していくためには、自己肯定感(自らの価値や存在意義を肯定できる感情)や自己有用感(他者から評価を感じたうえで自己に対する肯定的な評価をする感情)を育てられる環境を大人が率先してつくり、自らを大切に思う気持ちや自身を大切に思ってくれる人の存在に気づくことが重要となります。

そのため、青少年にとっては身近な存在である学校・家庭・地域が青少年を取り巻く課題や目標を共有し連携していくこととしました。

数字で見る青少年の現状(27年度の市立小・中学校)

- ①暴力行為:前年度5.6%増の3,906件。小学校2,080件、中学校1,826件のうち生徒間暴力が合わせて2,602件と最多。
- ②いじめ:前年度24.3%減の1,852件。「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる」が68.3%で最多、次いで「軽くぶつかってきたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」が20.6%。
- ③長期欠席:前年度8.8%増の5,084人。不登校が最多の3,367人、病気や経済的理由が996人。
- 28年度の磯子区内における青少年犯罪は、窃盗犯が最も多くその他と合わせて14件。同じく補導件数は、506件で深夜徘徊が最多。
- 28年度の横浜市内での児童虐待での相談件数は、6,263件で年々増加傾向にある。内訳は、心理的虐待が約40%、身体的虐待とネグレクトが各30%。虐待者の割合は、実母・実母以外の母が約60%となっている。

青少年が問題行動を起こす原因

昨今の社会状況の中で、同じ悩みを抱える青少年は多いものの、問題行動につながる人とつながらない人がいます。問題行動に発展させないためには、悩みを一人で抱え込ませないようにすることが大切で、頼れる人や相談できる人、手を差し伸べてくれる人の存在(居場所)が必要不可欠です。つまり、人に認められ安心していられるといった人と人との間に生まれる精神的な居場所(心のよりどころ)が重要だということです。

*ウラ面に続く